

編集発行

第54号

富山県立八尾高等学校

教育情報部・図書委員会

富山市八尾町福島 213

TEL 076-454-2205

令和7年2月28日

詩の世界への誘い

校長 南部 千恵子

高校生の頃、定期的に課題図書が与えられ、読書感想文を書くという宿題がありました。読書は好きな方でしたが、好みではない本が課題図書になることもあり、時には苦痛に感じることもありました。その中で、この本を課題図書にしてくださった先生には今でも感謝しています。それは、茨木のり子さん著「詩のころを読む」(岩波ジュニア新書)です。この本は、詩人の茨木のりさんが、自分の好きな詩を選んで解説を加えた詩の入門書です。

当時私は高校2年生でしたが、言葉が紡ぐ世界の素晴らしさ、そして何より詩の世界の自由さに目が覚めるような感動を覚えました。詩は、形式は自由、定型詩もあれば普通の文章のような散文調もあり、内容も自由、恋愛や人生、「便所掃除」をテーマにしたものまである、方言で書かれたものもあればひらがなだけの詩もある、何と自由な世界なのか。

国語の教員になってからは、詩の授業をする時には、生徒に私と同じ驚きを体験してもらいたくて、「何でもあり」な詩の世界を体感できるようなプリントを作って配付しました。生徒は、詩を作ることをとても難しく感じるようですが、「何でもあり」な世界を見ると、「こんなのもいいんだ、自分にもできそう」と思ってくれるようで、生徒作の素敵な詩や面白い詩、魂の叫びのような詩など多くの作品に出会うことができました。

「詩のころを読む」で紹介されていた詩で惹かれた詩はいくつもあったのですが、私は、河上肇さんという経済学者の詩に衝撃を受けました。

「旧い友人が新たに大臣になったといふ知らせを読みながら」

私は牢の中で
便器に腰かけて
麦飯を食ふ。
別に人を羨むでもなく

また自分をかなしむでもなしに。

勿論こゝからは

一日も早く出たいが、

しかし私の生涯は

外にある旧友の誰のとも

取り替へたいとは思はない。

「老後無事」

たとひ力は乏しくも

出し切つたと思ふこゝろの安けさよ。

捨て果てし身の

なほも命のあるまゝに、

飢ゑ来ればすなはち食ひ、

渴き来ればすなはち飲み、

疲れ去ればすなはち眠る。

古人いふ無事是れ貴人。

羨む人は世になくも、

われはひとりわれを羨む

河上肇さんは、戦前の厳しい思想統制により5年近くも獄中生活を余儀なくされながらも、生涯、権力にも生活苦にも決して屈することなく自らの思想信条を貫き通した方です。

初めの詩では「友人が大臣になったことを獄中で知ったが、自分の生涯は他の誰のものとも取り替へたいとは思わない」と述べ、後の方の詩では、出獄後、人生を全力で戦い抜いた晩年の感慨、「やりきった満足感、心の安らかさ」、「(投獄されるような自分の人生を)羨む人は世の中に誰もいなくても、私は一人、私自身を羨む」と強烈な矜持が表現されています。

高校生の私は、これほどまでに自分の人生を誇れる悔いのない生き方、その強さに衝撃を受けたのでした。あれから40年あまりが経ちましたが、未だ河上さんの域には及びようもありません。しかし、少なくとも人生を終える時に、少しでも悔いのないように生きていきたいと思っています。

令和6年度 教養講座

「これから必要なマインドセット」



- ❖ 講 師 本校教諭 長島 伸先生
- ❖ 期 日 12月5日(木) 14:30～15:30
- ❖ 場 所 図書館

教養講座のお知らせ

「これから必要な
マインドセット」

講師 本校教諭
長島 伸先生

12月5日(木)
14:30～15:30

本校 図書館にて

杉原千景の
命を
守る
命を
守る

どんなでも読んで
きます。ぜひお前
しくたい!

「マインドセット」とは、過去の経験や教育の内容、育ってきた社会、個人的な先入観などの、さまざまな要素によって形成される無意識の思考パターンや固定化された考え方をいいます。これから必要なマインドセットとはどういうものなのか。偉人たちの考え方や行動をもとにお話ししていただきました。



感想

- ・世界をよりよくするために日本の「和」の心と「武士道」をもっと大切にすべきであり、我々日本人もその心を重んじるべきと思った。
- ・日本人の自己肯定感が低いのは真面目過ぎるからだと思った。正しいことをすることが自信や成長につながると思った。
- ・私はこれから正しいことダメなことを正しく判断できるようになりたいと思います。また、思ったことを勇気を持って行動することで、誰かの役に立てる人になりたいです。
- ・杉原さんは国家に反対してまで、自分の正しいと思うことをしてすごいいました。毎日18時間も手作業でビザを書き続けるなんて絶対できないです。これが武士道なんだと思いました。私もこの精神を忘れないようにしたいです。後、自分にもっと自信をつけるようにしたいです。
- ・今まで自分があたり前に思っていたことが、日本や世界を通して見てみるとあたり前じゃないことが分かった。日本は平和な国だとは思っていたけど、その背景に昔の多くの人の武士道によって自分が善いと思ったことを実行したことで今の日本があるんだと感ずることができた。私も正しいことや善いことを行っていこうと思う。
- ・世界的に見た時、日本は戦争もなく良い国で、好意的に思われているけれど、日本人は自己肯定感や自己信頼感が低いということが分かりました。今後、自国のためにも自身のためにも自分の意見を持ち、自分で善悪を判断することが大切だと思いました。
- ・私はこの講座を聞いて「マインドセット」とは何か分かり、また「武士道」の大切さに気付きました。自身の正しいと思うことをつらぬくのは大切だと思いました。



第36回読書感想画中央コンクール 富山県高等学校の部 優秀賞



14H 白石 心和 「理想」
〔「世界が青くなったら」 武田 綾乃/文藝春秋〕

校内読書感想文コンクール

第70回青少年読書感想文全国コンクール校内選考 2学年最優秀賞

23H 鹿島 柑那

『『こころ』を読んで』

(『こころ』夏目漱石：新潮社)

読書感想文を書くにあたって、『こころ』という題名に惹かれたのでこの本を選んだ。私は「こころ」のひらがな三文字に朗らかで明るい印象を持ったが、想像していた心温まる話とはかけ離れていた。この長編の物語を読んでいる間は、常に重苦しく、憂鬱な気分だった。



物語は、自分のやりたいことが見つからず苦悩する大学生の「私」が鎌倉の海岸で不思議な雰囲気を持つ男性と出会う場面から始まる。「私」は男性の魅力に惹かれ、「先生」と呼び慕うようになる。先生は仕事をしておらず、他人との交流もなく妻と二人でひっそりと暮らしている。田舎出身で、それなりの資産家の子供である「私」と、昔は似たような境遇で妻の母親に「鷹揚」と言われた先生は、共通する部分があったのだと思う。「鷹揚」は小さなことにこだわらず、ゆったりとしているさまのことだ。自分の未来にこれといった確証もないのに、どこか他人事のように物事を考える二人は似ている。先生は優れた学問、教養があるが、名声を求める気持ちはもう持っていない。それを不思議に思った「私」は毎日先生の元を訪れ、ついに先生の過去をいつか残らず話してもらうという約束を取り付ける。大学卒業後、病気の父のいる実家へ帰省した「私」は、父の死の間際、先生からの手紙を受け取る。「この手紙があなたの手落ちる頃には、私はもうこの世にはいないでしょう。とくに死んでいるでしょう。」という一句が書かれた手紙は、先生からの遺書だった。「私」はすぐに東京行の列車に乗り、手紙の続きを読む。そこには先生が学生時代、親友と同じ女性を好きになり、親友を出し抜くように結婚を決め、その直後に親友が自殺したこと、そして自分もその生涯を閉じるという旨が書かれていた。手紙を読み終えたところで物語は終わる。

私が心に残ったのは、「とにかく恋は罪悪ですよ、

よござんすか。そうして神聖なものですよ。」という先生の手紙に書かれた一文だ。人間は、好奇心、愛情、嫉妬、悲哀、懐疑心など、様々な「こころ」を持っている。その中でも夏目漱石が私たちに伝えたかったところは「後悔」だと考えた。人は生まれてから何度も選択・行動をする。この時、自身の選択や行動が害をなすことがある。害の対象が自分自身であれば、被害は最小限で済むことが多いので、反省し自分の成長へ繋げることができる。問題なのは対象が他者である場合だ。自分の選択した行動で誰かが傷つけてしまったとき、深く後悔し、最悪の場合「死」に繋がるかもしれない。この物語の中で先生は親友との友情ではなく恋を選んだ。そして結果的に親友は自殺し、先生も後を追うように命を絶った。恋を優先するその行動自体は全く問題ないだろう。先生の一連の行動で一番問題だったのが「言葉」だったのだと思う。先生は結婚のことを自分から親友に話すことはしなかった。親友を出し抜いたことへの罪悪感があったのかもしれない。言葉は、様々な要素の組み合わせで構成される。もし先生が言葉の選択を間違えず「自分も同じ女性に好意を寄せているのだ」と伝えられていれば、親友を出し抜くことはなく、たとえ親友と女性が結ばれなかったとしても自殺するまでには至らなかったかもしれない。神聖なものであるはずの恋愛感情が、言葉の選択ミスによって罪悪なものへ変化してしまった。

「言葉の選択」という点においては、現代を生きる私たちも意識していかなければならない。言葉は私たちのコミュニケーションを支える重要な手段であり、自分を表現し、世界を広げてくれるツールだ。声のトーンやタイミング、伝達手段などにおいて正しい使い方をすればプラスの力になる。しかし、近年露呈し始めたSNS問題等はおそらくはほとんどが言葉のマイナスの力が原因だろう。恋愛を「罪悪」だとも「神聖」だともとらえた夏目漱石には、言葉の持つ正と負の力について改めて考えさせられた。

令和6年度 校内読書感想文コンクール入賞者

1 学年

最優秀賞	14H 白石 心和 「カラフルな世界で生きる」 (『カラフル』森絵都：文藝春秋)
優秀賞	14H 荒本依緒俐 「『普通』に生きることの難しさ」 (『コンビニ人間』村田沙耶香：文藝春秋)
佳作	14H 佐渡 美羽 「違和感に気づくこと」 (『豆の上で眠る』湊かなえ：新潮社)
	12H 森 悟史 「牧野富太郎の人生から学んだこと」 (『牧野富太郎(日本植物学の父)』清水洋美：汐文社)

2 学年

23H 鹿島 柑那 「『こころ』を読んで」 (『こころ』夏目漱石：新潮社)
23H 樫尾 咲希 「青春小説」 (『でーれーガールズ』原田マハ：祥伝社)
24H 中村 心南 「生きづらさを抱える人たちの声にならない声」 (『52ヘルツのクジラたち』町田そのこ：中央公論新社)

* 審査の結果、第70回青少年読書感想文全国コンクール・富山県審査会の自由読書部門に14H白石心和さん、23H鹿島柑那さんの作品を出品することになりました。

図書委員会の活動

通常活動

図書委員が日頃行っている日常作業は、カウンター当番、除籍作業、蔵書点検、書架整理・図書館だより作成などです。細かく単調な作業の繰り返しですが、怠るときちんとした蔵書管理ができなくなるので、気持ちよく図書館を利用してもらうために間違いの無いよう一冊一冊丁寧に本を扱っています。



校外選書

7月と12月の各学期末考査終了日に、紀伊国屋書店に校外選書へ行きました。

校内バスで行き帰り移動し、一人2～3冊を目安に本を選びました。その階のフロア全体が本屋となっていて、こんなに広い本屋は見たことなかったので驚きました。紀伊国屋書店にはさまざまな種類の本が並んでおり、どれもとても面白そうな本ばかりでとても迷いました。ほかの図書委員の皆さんも真剣に本を選んでおり、私が選んだ本はもちろんですがほかの本もたくさん読みたいと思いました。

7月の選書の際には、選んだ本のPOPを書き、TAKANAKI WEEKでのPOPコンテストに備えました。



POPコンテスト～TAKANAKI WEEK～

9月24日～27日のTAKANAKI WEEKに「POPコンテスト」を開催しました。図書委員だけでなく、全校生徒の皆さんからお気に入りの本を紹介するPOPを募集し、期間中、生徒玄関前に掲示しました。生徒や先生方だけでなく、保護者・地域の皆さんにも投票に協力していただき、人気投票を行いました。折り紙や色画用紙を使い、ハロウィン仕様に飾り付け、より多くの人の目に留まるように工夫しました。この企画によってより多くの人が本を読むきっかけになってくれたらうれしいです。



校内放送～読書週間イベント～

10月27日(日)～11月9日(土)の読書週間期間中、それぞれが校外選書で選んだおすすめの本を、校内放送を使って紹介しました。2分間程度で簡単にあらすじや見どころを話したり、冒頭だけ読み聞かせたりしました。また、校内放送で雑学クイズを行いました。6問ピックアップして放送しましたが、どれも難易度が高く、難しかったことだと思います。とても緊張しましたが、皆さんに楽しんでもらえるよう工夫を凝らして放送しました。





図書委員が選んだ各分野 おすすめの本



9

分野

『ChatGPT 見るだけノート』

松村 雄太
007.1 マ



世間で超話題のAIツール「ChatGPT」について、知識ゼロからでも理解することができる本です。例えば、ChatGPTでできることや、逆に苦手なこと、これまでのAIや対話型AIとどこが違うかなど細かい部分までわかりやすく書かれています。ぜひ、この本をきっかけにChatGPTに興味を持ってみませんか？

1

分野

『認められたいの正体』

山竹 伸二
141.3 ヤ



「学校生活で、自分の隣にいてくれる友とは「本音」で語り合っているだろうか？自分を押し殺す必要はない。今は個人を自由に表現していいんだ。さあ、君も思いを伝えてみよう。」現代社会の人間関係の有り方や心の傷の正体を、歴史の背景や昔の人の言葉などで分かりやすく私たちに問いかけてくれます。

2

分野

『東大生ラッパーが教える ラップで学ぶ世界史』

法念
209 ホ



高校時代に赤点を連発していた作者が、世界史が好きになれない人や苦手な人に向けて、わかりやすくラップを用いて解説しています。覚えにくいところを歌詞にしてわかりやすく解説しているの、時代の流れなど順番がちやごちやになり、世界史が苦手という人もわかりやすく理解できます。

3

分野

『SDGs が問いかける経営の未来』

モニターデロイト
336.1 デ



この本はSDGsの解説本ではありません。作者はSDGsを契機に加速する、企業をとりまく政府、資本、市場の変化について説明し、SDGsを長期経営戦略の土台とみています。SDGsを皆とは違う視点で考えているのがおもしろいところです。

4

分野

『身の回りにあるノーベル賞がよくわかる本』

かきもち
402 カ



人類に多大な貢献をした発見へ贈られるノーベル賞、そんなノーベル賞の中でも、私たちの日常生活との接点を持つ研究結果を、本書ではたくさん知ることができます。面白い説明と、猫のイラストで楽しくノーベル賞を学べます。

5

分野

『シアワセなお金の使い方-新しい家庭科勉強法2-』

南野 忠晴
591 ミ



本書では、家庭科に軸足を置きながら、10代の暮らしに沿って「お金の使い方」をわかりやすく講義していきます。自分も暮らしも、さらには社会も「シアワセ」になる使い方を身に付ければ、もう怖いものなしです。シアワセなお金の使い方」力をぜひ身に付けてください。

6

分野

『車いす犬ラッキー』

小林 照幸
645.6 コ



仕事一筋で50才を過ぎるまでペットと無縁の人生を送ってきた男が、一匹の捨て犬との出会いをきっかけに周囲も驚く愛犬家として成長していくノンフィクション物語です。飼い主とペットのラッキーとの深い絆が感じられる感動する一冊です。

7

分野

『打ち返す力』

水谷 隼
783.6 ミ



オリンピックメダリストの水谷隼。4大会連続でオリンピックに出場した輝かしい経歴の裏で、不正ラバー問題やケガ、目の不調、誹謗中傷といった多くの困難とも闘い続けてきた。逆境を乗り越えた著者が、折れない最強のメンタルの養い方など「水谷流・人生を勝ちきるコツ」を明かす。

8

分野

『頭のいいひと、悪い人の「とっさの一言!!」』

阿奈 靖雄
809.4 ア



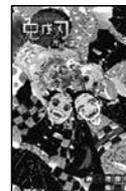
人と会話するとき、うまく話したいと思ったことはありませんか？この本を読むことで相手を苛立たせたり、うんざりさせたりすることを減らすことができます。親しい人との関係を壊さないための言葉の使い方、工夫をこの本で学んでみてください。

9

分野

『鬼滅の刃 片羽の蝶』

吾峠呼世晴
913.6 ゴ



大人気漫画「鬼滅の刃」の小説第二弾。鬼に両親を殺された幼いカナエとしのぶを助けた悲鳴鳥。鬼殺隊への入隊を希望する二人にある試験を与えるのだが…大人気の柱が登場する物語5選を大公開！たくさんの物語が入っていてたくさん楽しめます。

全校貸出ランキング BEST5

1



薬屋のひとりごと

2



わたしの幸せな結婚

3



本好きの下克上

4



ハイキュー

4



神様の御用人

各学年クラス別 貸出冊数1位

1学年	3組	93冊
2学年	4組	24冊
3学年	4組	55冊

令和6年度 図書委員会の1年間の活動

- 4月 新入生図書館オリエンテーション
生徒図書委員会
 - 5月 図書委員ビブリオバトル
 - 7月 校外選書①
POP作成
蔵書点検
TAKANAKI WEEK「POPデザインコンテスト」準備開始
 - 9月 TAKANAKI WEEK「しおりデザインコンテスト」展示
 - 10・11月 読書週間イベント 校内放送
 - 12月 校外選書②
第1回教養講座「これからのマインドセット」
図書委員会「ともしび」第54号編集委員会・原稿作成
 - 1月 「ともしび」作成
 - 2月 「ともしび」54号発行
- ※毎月 図書館だより発行 月毎の飾りつけ
 ※毎日 カウンター当番 書架整理
 ※各クラス HR 読書会・ミニビブリオバトルの準備・進行

令和6年度 図書委員会

(◎は委員長・○は副委員長)

11H 大泉 蒼介	奥村 仁
12H 須崎 来希	豊倉 蓮
13H 菊地 愛織	楠 和華
14H 松田振太郎	矢田信之介
21H 大谷内駿輔○後期	岡田 玲威◎後期
22H 酒井 一十	窪 健史郎
23H 橋爪 友紀	北山 亮
24H 久和 圭太	毛利 碧
31H 麦谷 光翼	森 拓真
32H 阿部 煌音	稲垣 優里
33H 福島 紗良◎前期	柳瀬あゆみ
34H 松岡 心結○前期	山田 瑞貴

編 集 後 記

この半年、委員長として、「POP コンテスト」の企画・準備、教養講座、校内放送を実施しました。他にも校外選書に行ったりもしました。慣れない中、いろいろな人のサポートを受けて、様々な企画を実施できました。日常作業においても毎回欠かさずに行うことができました。これらの企画や活動を通してより多くの方が本に興味を持ってもらえたらうれしいです。今後も皆さんに、より楽しんでいただけるような企画を考えて、図書館を盛り上げたいと思っています。

後期図書委員長 岡田 玲威